

## 協伸商会穀物レポート [KKR] Vol. 029

(2020/21年度 USDA 米国農務省 12月10日発表)

【ハイライト】① 8月中旬以降の米国産穀物の減収見込みや中国の大豆/コーン等の大量買い付け予想から先月末まで穀物需要が活発化し、シカゴ定期市場は主要穀物価格が大幅に上昇、大豆は11月末には12ドル/buを付け2014年以来6年ぶりの上昇、小麦は6ドル/台、コーンも4ドル/台に乗せ、其々8月比2~3割程度の高騰となった。② しかし、この価格高騰から中国は米国産から来春収穫を迎えるBRA産大豆へのシフトをすすめていると見られ、12月に入り中国の大豆買付が減速、現在大豆は11ドル/台半ば、小麦5.7ドル前後、コーン4.2ドル前後と幾分軟化する局面となっている。③ USDA予測では今年度のBRA大豆生産は133百万ト/輸出は85百万トと史上最高の見込みであるが、競合する米国の新穀大豆生産量見込みは113百万トと前年97百万ト比約2割増加、輸出も60百万トと前年(46百万ト)から大幅に拡大の見込みであり、中国向輸出を巡ってBRAとの競合関係が強まる気配である。④ 一方、中国税関総署の発表によれば今年1~11月の累計大豆輸入量は9,280万トと前年同期比17.5%増加し過去最高となりUSDA予測通り史上初めて1億トの大会に乗せる可能性が高まっている。これは00/01年輸入量13百万ト比で何と9千万ト近く拡大したことになり大豆世界貿易量の60%を占めると同時に、海上物流を大きく押し上げている。また併せて、需給表にもある通り中国のコーン輸入数量見込みが1650万トと前月比350万ト前年比1000万ト増と大きく拡大しているのも見逃せない。⑤ 中国の大豆/コーンの輸入拡大の背景には昨年ASF(アフリカ豚熱)感染拡大により激減した豚肉生産(18年5,400⇒19年4,250万ト)の回復と配合飼料需要増がある。また生産レベルでは、ASF拡大を機に衛生対策が不備な大多数の小規模養豚(年間出荷100頭以下約45千戸全体の97.8%)の淘汰が進み年間1,860万頭出荷の温氏食品集団等上位20社への生産集約が進みつつある。

## 1、世界穀物需給の概要 (大豆除く)

- ① 生産量：2,723百万ト (前年比1.9%増、前月比0.1%増)
- ② 消費量：2,719百万ト (前年比1.9%増、前月比±0)
- ③ 貿易量：466百万ト (前年比5.3%増、前月比1.5%増)

## 2、とうもろこし

- ① 生産量：1,144百万ト (前年比2.5%増、前月比0.1%減)
- ② 消費量：1,158百万ト (前年比2.2%増、前月比0.1%増)
- ③ 貿易量：186百万ト (前年比8.6%増、前月比0.7%増)
- ④ 概況：米国生産は9月見通比10百万ト(378⇒368百万ト)減少したが不作の前年(346百万ト)比22百万トの大幅増。また輸出も67百万トと前年比22百万トの大幅増見込み。BRA生産も前年比約1千万ト増の110百万トと史上最高。消費量もEU/中国で増加し前年より着実に増加。連動して貿易量も186百万トと前年比9%近い大幅増となる見込み。
- ⑤ 価格は\$4.17/Bu (前年\$3.67/Bu、前月\$4.07/Bu)と前月比¢10上昇した。

## 3、小麦

- ① 生産量：774百万ト (前年比1.2%増、前月比0.2%増)
- ② 消費量：758百万ト (前年比1.3%増、前月比0.7%増)
- ③ 貿易量：194百万ト (前年比1.1%増、前月比1.5%増)
- ④ 概況：世界生産量はEUで前月比若干減産となったが、豪州で150万トRUSで50万ト増加となり史上最高見通し。消費量も中国/EU等の増加によりこちらも史上最高見通し。貿易量は194百万トと前月より3百万ト増加し極めて堅調。やはり世界的な小麦消費拡大が全体を底上げしている。
- ⑤ 価格は\$5.67/Bu (前年\$5.33/Bu、前月\$6.02/Bu)と前月比¢35下落した。

## 4、大豆

- ① 生産量：362百万ト (前年比7.6%増、前月比0.2%減)
- ② 消費量：370百万ト (前年比4.3%増、前月比0.2%増)
- ③ 貿易量：168百万ト (前年比2.4%増、前月比0.4%増)
- ④ 概況：米国生産量は114百万トと前月と変わらないが不作の前年比17百万トの大幅増(97⇒114)。BRAは前年比8百万ト(125⇒133)増加。世界全体では前年336百万ト⇒362百万トと前年比8%近い大幅増産となる見通し。消費量は中国輸入見通しが1億トと前年89百万トから大幅に拡大、世界貿易量も連動し168百万トと前年比2.4%
- ⑤ 価格は\$11.63/Bu (前年\$8.90/Bu、前月\$10.99/Bu)と前月比¢64上昇。

# 世界の穀物・大豆等の需給

2020年12月10日  
米農務省発表： 単位100万トン

主要穀物世界の需給								
		生産量	総供給量	貿易量	総使用量	期末在庫量		
全穀物	2018/19	2,626	3,448	430	2,640	808		
	2019/20	2,672	3,480	442	2,670	810		
	2020/21	11月	2,721	3,532	459	2,710	822	
		12月	2,723	3,533	466	2,719	814	
小麦	2018/19	731	1,019	174	735	284		
	2019/20	765	1,049	191	748	301		
	2020/21	11月	772	1,073	191	753	320	
		12月	774	1,074	194	758	317	
粗粒穀物 (とうもろこし等) 注1	2018/19	1,398	1,768	213	1,421	347		
	2019/20	1,411	1,758	208	1,427	332		
	2020/21	11月	1,448	1,779	224	1,458	321	
		12月	1,448	1,779	227	1,461	319	
大豆	2018/19	361	460	149	347	113		
	2019/20	336	449	165	354	95		
	2020/21	11月	363	458	168	369	89	
		12月	362	458	168	370	88	

世界のとうもろこし需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	11月	303.33	1,144.63	178.23	1,156.54	184.77	291.43
	12月	303.42	1,143.56	179.57	1,158.01	185.97	288.96
アメリカ	11月	50.68	368.49	0.64	309.26	67.31	43.23
	12月	50.68	368.49	0.64	309.26	67.31	43.23
アルゼンチン	11月	1.87	50.00	0.01	15.00	34.00	2.88
	12月	2.87	49.00	0.01	15.00	34.00	2.88
ブラジル	11月	5.49	110.00	1.50	70.00	39.00	7.99
	12月	4.99	110.00	1.50	70.00	39.00	7.49
EU	11月	7.14	64.20	20.00	81.50	2.50	7.34
	12月	7.18	63.70	19.00	80.40	2.20	7.28
日本	11月	1.39	0.00	16.00	16.05	0.00	1.34
	12月	1.39	0.00	16.00	16.05	0.00	1.34
中国	11月	200.53	260.00	13.00	282.00	0.02	191.51
	12月	200.53	260.00	16.50	285.50	0.02	191.51
ウクライナ、ロシア	11月	2.05	42.50	0.06	17.10	25.60	1.90
	12月	2.31	43.50	0.06	17.10	27.10	1.66

世界の大豆需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	11月	95.34	362.64	165.39	369.03	167.82	86.52
	12月	95.46	362.05	166.33	369.72	168.48	85.64
アメリカ	11月	14.25	113.50	0.41	63.11	59.87	5.17
	12月	14.25	113.50	0.41	63.51	59.87	4.76
アルゼンチン	11月	27.00	51.00	4.00	47.20	7.00	27.80
	12月	26.80	50.00	4.00	46.20	7.00	27.60
ブラジル	11月	20.30	133.00	0.40	48.10	85.00	20.60
	12月	20.40	133.00	0.40	48.10	85.00	20.70
中国	11月	26.80	17.50	100.00	117.40	0.10	26.80
	12月	26.80	17.50	100.00	117.40	0.10	26.80
EU	11月	1.61	2.75	15.40	18.51	0.25	1.00
	12月	1.64	2.70	15.40	18.51	0.25	0.98

世界の小麦需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	11月	300.76	772.38	187.62	752.68	190.79	320.45
	12月	300.62	773.66	189.19	757.78	193.65	316.50
アメリカ	11月	27.98	49.69	3.40	30.67	26.54	23.86
	12月	27.98	49.69	3.27	30.67	26.81	23.45
アルゼンチン	11月	1.70	18.00	0.01	6.05	12.50	1.16
	12月	1.70	18.00	0.01	6.05	12.50	1.16
オーストラリア	11月	3.49	28.50	0.20	7.50	19.00	5.69
	12月	3.90	30.00	0.50	8.00	20.00	6.40
カナダ	11月	5.50	35.00	0.45	9.70	25.00	6.25
	12月	5.50	35.18	0.45	9.60	26.00	5.53
EU	11月	14.75	136.55	5.70	118.00	26.00	13.00
	12月	14.30	135.80	6.00	118.50	26.00	11.60
中国	11月	151.68	136.00	8.00	131.00	1.00	163.68
	12月	151.68	136.00	8.50	134.00	1.00	161.18
インド	11月	23.99	107.59	0.03	99.50	1.00	31.11
	12月	23.99	107.59	0.03	99.50	1.00	31.11
ロシア	11月	7.23	83.50	0.50	41.00	39.50	10.73
	12月	7.23	84.00	0.50	41.00	40.00	10.73
ウクライナ	11月	1.15	25.50	0.08	8.10	17.50	1.12
	12月	1.15	25.50	0.08	8.10	17.50	1.12

脚注1：粗粒穀物はとうもろこし、マイロ、大麦、燕麦、ライ麦等の計で約80%がとうもろこしである。

脚注2：年度は穀物年度。地域・作物により異なる。例：アメリカ産とうもろこし、大豆：9月～8月。

脚注3：ウクライナ、ロシアは両国の合計。

# 躍進する世界の穀物生産/輸出大国ブラジルの現状と課題(5)

今回は、BRAセラードを中心にした将来的な耕作地拡大によりBRAの穀物生産における世界的存在価値がより高まる可能性を述べたが、今回はその基盤となるBRAの「大規模生産農場」の拡大の現状とその背景について整理したい。

- BRAの農場規模は、農地保有500haを超す農場が全体農地保有の多数を占め、中には日本の感覚から言えばとんでもない**1万haを超える「超大規模農場」**が多く生成され、その農場平均規模**3戸でほぼ東京23区面積(627km<sup>2</sup>=62,700ha)に匹敵するレベル**となっている。「表1」は「2017年農牧畜センサス」によるBRAの農場規模別戸数とその保有面積であるが、500ha以上の農地保有戸数は10万5,500戸(全体の僅か2%)であるがその保有面積は**約2億haと全体の約58%**を占有し圧倒的な存在を示している。
- 一方、競合相手であり大規模化の進んでいる米国はどうか？ 米国はUSDA統計がacre面積表記なので同一の比較は出来ないがほぼ近い数値レベルで比較したのが「表2」である。米国は「2017年農業センサス」によれば1,000acre(405ha)以上所有農家戸数は17万2,800戸(全体の8.5%)、所有面積約6億4千万acre(**2億5900万ha**)、**シェア71%**とBRAを上回る寡占化となっている。ただ、ベースのBRA=500haと米国=1000acre(405ha)との格差を考えれば大規模農家戸数/面積/シェア等はほぼイーブンと見ても取れる。
- もう一点、統計上両国の「超大規模農場」は「表1/2」で示されている様に**BRA=1万ha以上、2,400戸、面積5180万ha、シェア14.8%、平均規模21,600ha。米国=5,000 acre(約2,000 ha)以上、25,600戸、面積3億4,200万acre(1億3,800万ha)、シェア38%、平均規模約5,400ha**である。これはベースが違うので一概に評価は出来ないが、米国は5,000acer以上の大規模層の底辺がかなり広く、一方BRAは1万haを超える「超大規模農場」の存在感は年々高まっており中には10万haを超える農場の出現も目だっている。(来月号詳細)
- 上記統計は、あくまでも生産者「保有面積」(land in farms)であり実際の「耕作面積」でないことに留意する必要がある。実際の耕作面積は先月号で示した通りであるが今回の両国の2017年センサスによれば**BRA=6340万ha、米国=3億2千万acre(1億3千万ha)**であり、実際の両国の穀物等の生産力比較は「耕作面積」で行うことが妥当であるが、保有面積と耕作面積の差は大半が「牧草地」「荒地」であり牧畜等の畜産生産を含めた農業生産の総合力では大きな意味を持っている。また、この牧草地等を耕作地転換するためには**多大な資本投下**が必要であり簡単にはすすまない。米国のここで言う耕作面積は、正確には“**harvested cropland**”であり広義の耕作地は先月号(約1億6千万ha)に近いと言える。また、耕作面積については統計機関によって数字の乖離が大きい。
- 次に、BRAのこの「大規模生産農場」の拡大は何によってもたらされたのか？それはいくつか考えられるが、**最大の要因は「農業生産の金融化」とそれを支えてきた穀物メジャーや生産資材販売店等の存在**と言える。BRAの農業金融政策は、1980年代に入り財政規律問題やインフレ対応から大きく変わり、農業部門融資は1979年508⇒84年153⇒93年47億レアルまで大幅縮小され、1990年台前半には農家の資金不足が大きな問題となった。
- その中で政府は、**1994年「農産物証券=CPR」(図1)を開発、**運輸資金を調達したい農業者は将来収穫する農産物で借入金を返済する法制度を整えた。ここに農産物集荷を目的とするBungeやCargill等の穀物メジャーと農家への肥料/農薬/種子販売等の担保処置を求める資材販売店が融資を引き受けるスキームが造られた。更にBRA銀行は、2001年多くの投資家が参入し易い金融商品である**「CPR Financiera」を発行し農業金融市場に革命**をもたらした。
- この結果、BRA農業生産における金融機関その他の融資実績は「表3」に見る様に穀物流通業者等が約60%程度を占め、その融資金額は約5.2兆円にのぼり**穀物メジャーが大豆等穀物生産や輸出拡大の主導権**を握る展開となっている。そのことが特集(3)で整理したように2000年以降の僅かこの20年でBRAが米国と並ぶ穀物大国の地位を確立した大きな要因の一つと言える。これに対し、米国の農業金融の場合は運輸資金融資元は商業銀行が47.3%、FCS等の公的銀行が35.6%と大半を占め、穀物流通業者シェアはBRAに比べ17.1%と低い。これは歴史的に政府主導の作物保険/収入保険からなる**「農業保険」の農地面積加入率が80%**を超え、商業銀行等のリスクヘッジになっている点が大きいと推測される。(続く)

【表1】 ブラジルの規模別農家戸数と保有面積/耕地面積

	戸数	%	保有面積	%	耕作面積
1ha未満~10ha	2,543	50.2%	7,990	2.3%	NA
10~50 ha	1,586	31.3%	36,854	10.5%	NA
50~100 ha	394	7.8%	26,929	7.7%	NA
100~500 ha	365	7.2%	74,165	21.2%	※13,400
500超~ ha	106	2.0%	204,316	58.3%	※37,900
うち 10,000 ha超	2	0.0%	51,823	14.8%	※9,400
合計	5,072	100.0%	350,253	100.0%	63,400

出所：BRA『2017年農牧畜センサス』

※印は保有面積比率から推測

<単位> 戸数：1000戸、面積：1000ha / 1000acre

【表2】 米国の規模別農家戸数と保有面積/耕地面積

	戸数	%	保有面積	%	耕作面積	%
1-49 acre	856	41.9%	16,090	8.1%	4,429	6.7%
50-179	565	27.7%	57,003		17,094	
180-499	315	15.4%	94,008	10.4%	37,773	11.8%
500-999	133	6.5%	92,873	10.3%	45,887	14.3%
1000 over	173	8.5%	640,264	71.1%	215,657	67.4%
うち5000over	26	1.2%	341,961	38.0%	58,767	18.4%
Total	2,042	100.0%	900,218	100.0%	320,042	100.0%

出所：USDA 2017年農業センサス

【表3】 ブラジルと米国における運輸資金融資機関とそのシェア (2017/2018年度)

機関	ブラジル		アメリカ	
	金額	比率	金額	比率
公的銀行	43.8	18.9%	55.2	35.6%
商業銀行	21.0	9.1%	73.3	47.3%
協同組合	15.5	6.7%	-	-
自己資金および穀物流通業者等	151.1	65.3%	26.5	17.1%
全体	231.4	100.0%	155.0	100.0%

単位：BRA10億レアル、米国10億ドル (2018年為替：1レアル35円、1ドル110円)

【図1】 農産物証券 (CPR) を利用したバーター契約

